

## 瞑想

私の中に在る電子の雲  
潜在的な  
不規則な

歩くもの  
飛び交うもの  
かつて触れたことのある、しおからい涙の温かさを持つ 私自身の

それ

曲面に映し出される灯り  
沈黙が  
振子のように揺れ続けた憧れを冷やしてゆく

執拗に変奏され  
瓦解してゆくものにこそ在る、と私は信じる

あるエントロピーが生命の渴きを増幅している  
保存と刺し連えることさえ厭わず

日常とはかけ離れた遙か遠くに  
あるいは死そのものの死滅と同義ではない永遠というものがある

ああ  
明滅し  
廃棄された物体の中で孵化しはじめる鼓動に耳をすませ

媒介を始める無数の微細なプリオンの鋭い分子構造

間接的な意思の作用が私自身を問い詰めている  
紫外線によって劣化したプラスチックのような意思  
それをいかにして再生するかを

(2007.2.20)